

4年5組音楽科学習指導案

指導者 千葉市立蘇我小学校 村田 美香

場 所 千葉市立蘇我小学校第2音楽室

1 題材名 音の重なりを感じ取ろう (8時間)

教材名 レッツ ダンス (歌唱)

ファランドール (鑑賞)

パレード ホッホー (歌唱)

茶色の小びん (歌唱・器楽・音楽づくり)

学習指導要領との関わり

A 表現 (1) 歌唱 イ 歌詞の内容、曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって歌うこと。

エ 互いの歌声や副次的な旋律、伴奏を聴いて、声を合わせて歌うこと。

(2) 器楽 イ 曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって演奏すること。

エ 互いの楽器の音や副次的な旋律、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏すること。

(3) 音楽づくり イ 音を音楽に構成する過程を大切にしながら、音楽の仕組みを生かし、思いや意図をもって音楽をつくること

B 鑑賞 (1) 鑑賞 ア 曲想とその変化を感じ取って聴くこと。

イ 音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取り、楽曲の構造に気を付けて聴くこと。

[共通事項] ア (7)音色、リズム、旋律、音の重なり、フレーズ (i)反復、変化

イ 音符、休符、記号等

2 題材について

(1) 題材観

児童はこれまでに、旋律の特徴を生かして、曲想にふさわしい表現の仕方を工夫しながら演奏する活動をしてきた。

そこで本題材では、これまでの学習を生かし、まず旋律の特徴を捉えてから旋律や音が重なり合う響きを味わえるように進めていく。そのためには、児童が捉えやすい、特徴的な旋律の中に和声的な音の重なりがある楽曲や、特徴のある旋律自体が重なる楽曲を用いることにした。題材曲はレッツ ダンス(歌唱) ファランドール(鑑賞) パレード ホッホー(歌唱) 茶色の小びん(歌唱・器楽・音楽づくり)の4曲を取り上げていく。

重なりに気を付けて学習を進められるように、始めにレッツ ダンスで和声的な部分二部合唱を

行う。自分たちの声が美しいハーモニーをつくっているか聴き合うことで、互いの音を聴きながら表現できるようにする。また、二部合唱の部分を取り出すことで、フレーズのまとまりという意識をもてるようにしていきたい。次いでファランドールの鑑賞を行う。ここでは、音を重ねた和音の響きではなく、二つの違った旋律が重なり合う響きを味わわせたい。3曲目のパレード ホッホーでは、二つの旋律を重ねて歌唱する。ファランドールの鑑賞で学習した二つの旋律が重なり合う響きを、自分たちの表現を通して感じ取らせたい。最後に茶色の小びんの合奏を行う。主旋律・対旋律という二つの旋律を重ね、和音伴奏で和音の響きを味わい、さらにリズム伴奏をつくって加えることで、打楽器の音色も重ねる。そのすべてが重なり合う豊かな響きを味わうことができるようにしたい。

以上の活動を通して、児童が互いの歌声や楽器の音を聴き合い、その重なり合う響きを楽しみながら表現できるようにしたいと考える。

(2) 児童の実態

本学級は男子16名（2名は9月30日及び11月13日に転入 まだ本学級の音楽の授業に不慣れである。また最近転入した児童は日本語が不自由なため担任が補助につく）女子17名 計33名で構成されている。音楽活動を好む児童が多く、歌唱・器楽・鑑賞の活動に積極的に取り組んでいると感じられる。器楽では教え合ったり、できるようになるまで時間をかけ集中して練習したりと、努力してよりよい表現をしようとする姿が見られる。

本時扱う歌唱については、常時活動として、ハ長調の音階とハンドサインによる発声練習、発音練習、息継ぎの練習に取り組んでいる。また、歌集「みんなのうた」の中から児童が好きな曲を毎時間1曲ずつ、記号やリズムなどを確認しながら取り上げている。そしてその時間に扱う楽曲の中の特徴的なリズムを1線譜のリズム譜に表し、歌ったり打楽器で演奏したりする活動をし、テンポや音の長さに気を付け、全員の音を揃えて表現する練習を行っている。また教材曲の一部または全部をミュージックスケールと呼ぶ線分図に表し、書き込みをする。例えば、リピートの印を書き込み、楽譜の進み方を確認したり、強弱に合わせて上下に動く曲線を書き込み、曲の山を確認したりと、様々な使い方で楽曲の理解を深めることに役立っている。

歌唱の際、気を付けていることについて、児童に聞き取り調査を行った。（聞き取り調査時は在籍32名）項目は児童から挙げた事柄で、児童から出された順番通り、数字はA いつも気を付けている B 気を付けるときと気にしないときがある C 気にしていない 人数である。

【歌を歌うときに気を付けていること】

	気を付けていること	A	B	C
①	楽譜に書かれている記号	5人	27人	0
②	息継ぎの場所	0	25人	7人
③	音の長さ	0	32人	0
④	歌詞の内容	12人	20人	0
⑤	曲の雰囲気	9人	18人	5人
⑥	口の開け方	15人	15人	2人
⑦	姿勢	19人	12人	1人

上表の①については、歌集「みんなのうた」を使っての取り組みから、また③については常時活動のリズム打ちから挙げられたと考える。みんなで同じ考えをもって、声や音の大きさ、長さを揃えて表現しようと考えている児童が多いと推測する。また、②⑥⑦は、常時活動の音階練習で毎回取り上げていることなので、2番目に挙げられたり、気を付けている人数が多かったりしたと考える。上手に歌いたいという願いをもっている児童が多いと推測する。本題材に関わる④⑤については、Aは3分の1程度であったが、⑤の曲の雰囲気を全く気にしていない児童が5人いた。本題材で、曲の特徴を感じ取って表現する活動を楽しめるようにし、曲の雰囲気を大切にできるようにしたい。

聞き取り調査では以上の7点が挙げられたが、実際歌唱曲を扱うときには、児童に他の注意も与えている。一つには曲の山を取り上げているが、それについては児童から挙がらなかった。まだ児童の歌唱表現に対する考えの中に根付いていないようである。しかし、気を付けるよう声をかけると、曲の山を盛り上げようと表現を工夫する姿が見られる。また、既習の合唱曲では、音の重なりが聴こえたかどうかを振り返るようにしていた。多くの児童が音の重なりを感じ取れたと言っており、本題材でも、音の重なりを感じ取ることができるのではないかと期待している。

また、前題材では、旋律の特徴をつかむ学習をしていた。「つるぎのまい」「白鳥」の鑑賞では、ほとんどの児童が自分の言葉で旋律の特徴を表現することができた。的確な言語表現が自分では難しい児童も、友達のよい意見に賛同することができ、自分なりに旋律の特徴を捉えることができた。リコーダー合奏「陽気な船長」では、同じリズム形でスタッカートがついた旋律とスタッカートがついていない旋律を演奏することができ、単純な旋律の特徴を生かして表現する経験をした。本題材でも、友達と相談することで全員が旋律の特徴をつかむことができると考える。

(3) 指導観

レッツ ダンス (歌唱)

レッツ ダンスは部分二部合唱曲である。タッカのリズムや二分休符による旋律は特徴を捉えやすい。常時活動の発声・発音練習でタッカについて取り上げ、リズム打ちでタッカのある小節を取出して練習することで、互いの声を揃えて歌えるようにしたい。また、二部合唱部分は、3度の部分と、音が上がっていく主旋律に対して音階的に下がっていく音をつけた部分があり、それぞれのフレーズで違った響きを感じることができる。二部合唱の部分を取り出して歌うことで、互いの歌声をよく聴いて多様な響きを楽しむとともに、フレーズのまとまりを意識できるようにしたい。

ファランドール (鑑賞)

ファランドールはビゼーのオペラ「アルルの女」による組曲の中の1曲である。「王の行進」と「馬のダンス」という2つの対照的な旋律で構成されており、これらの旋律の反復や変化、重なりは、児童にも捉えやすく、旋律の重なりを感じ取る活動にふさわしいと考える。児童は木管楽器の学習をした際に、「アルルの女」から「メヌエット」の鑑賞をしている。そこで、同じ「アルルの女」の中の曲であることを紹介するとともに、「王の行進」の旋律は「アルルの女」の中の「前奏曲」にも使われていることを知らせる。そうすることで「王の行進」の旋律を印象づけたい。また、児童はスタッカートの学習をし、リコーダーでスタッカートを多用した「陽気な船長」の

演奏をしている。常時活動の発声・発音練習でスタッカートを取り上げ、「陽気な船長」と関連づけることで、「馬のダンス」の旋律に対する理解を深めさせたい。それぞれの旋律の特徴をしっかりとつかんだところで、二つの旋律が重なる部分を鑑賞させ、二つの旋律が重なり合う響きを楽しませたい。そのとき「王の行進」は短調から長調に変わっている。主旋律を取出して聴かせ、比較できるようにし、その変化も確認できるようにしたい。

パレード ホッホー（歌唱）

パレード ホッホーはファランドールと同じように対照的な 2 つの旋律からなり、それらを歌声により重ねることができる楽曲である。ファランドールの鑑賞と関連付けることで、旋律の特徴を生かした表現と、その重なりを楽しむことができると思う。楽譜上でアとイの二つの部分に分けられている。アは八分音符が多用され、スタッカートがついた部分もあり、軽快な旋律である。イは付点二部音符の長い音を含んだ伸びやかな旋律である。アとイそれぞれの旋律の印象を話し合い、なぜそのような感じがするのかを音符から確認する。音の長さから感じられる旋律の特徴を大切に表現できるようにさせたい。そして、それぞれの旋律の特徴を理解したうえで同時に歌い、互いの歌声を聴き合って、重なり合う響きを楽しむことができるようにしたい。

茶色の小びん（歌唱・器楽・音楽づくり）

茶色の小びんは主旋律・対旋律・和音伴奏・リズム伴奏の豊かな響きを味わうことができる合奏曲である。歌唱で扱ったパレードホッホーに比べて主旋律と対旋律は単純な旋律である。しかし、小節の始めや拍の表では音が揃うが、それぞれの音の長さが違うため、旋律のもつリズムはまったく違う。単純だが違う長さの音が重なり合う響きを楽しめるように、ほかの音を聴きながら演奏できるようにしたい。また、和音伴奏では、旋律楽器を使って、一人で三度の和音を演奏する。他の旋律との重なりはもちろん、自分が演奏している和音の響きも味わえるようにさせたい。リズム伴奏はバッテリーリズムを演奏する楽器の組み合わせを考える音楽づくりとして取り組ませ、打楽器の音色を楽しませたい。また演奏するときには、互いを聴き合って音量を工夫できるようにさせたい。器楽には技能差があるので、いろいろなパート・楽器に取り組みせるとともに、合奏をする際には自分の演奏だけに夢中になるのではなく、他の声部を聴く余裕がもてるパートを担当させることとし、互いの音を聴き合えるようにさせたい。

題材を通して、グループでの話し合いを適宜取り入れ、個々の児童が感じ取ったことをグループで共有できるようにするとともに、自分だけでは考えをまとめられない児童が、友達の話をもとにして自分の考えをもつことができるようにさせたい。また、話し合いを通して考えたことを言語化することで、児童に表現に対する思いや意図を明確にもたせたい。

3 題材の目標

- 旋律や音が重なり合う響きを感じ取りながら、思いや意図をもって表現したり想像豊かに聴いたりすることができるようにする。
- 互いの歌声や楽器の音を聴き合いながら、気持ちを合わせて演奏することができるようにする。

4 評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
<p>・友達の歌声・楽器の音や副次的な旋律、伴奏の響きを聴きながら、自分の声・音を合わせて歌ったり演奏したりする学習に進んで取り組もうとしている。 関 - ①</p> <p>・「王の行進」「馬のダンス」の旋律の反復、変化、重なりによってつくられる楽曲の構造に気を付けて「ファランドール」を聴く学習に進んで取り組もうとしている。 関 - ②</p> <p>・バッテリーリズムの仕組みを生かし、打楽器の音を組み合わせる「茶色の小びん」のリズム伴奏をつくることに興味・関心をもち、思いや意図をもって音楽をつくる学習に進んで取り組もうとしている。 関 - ③</p>	<p>・互いの歌声や音、主な旋律や副次的な旋律、音の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、声や音を合わせて歌う表現を工夫し、どのように歌ったり演奏したりするかについて自分の考えや願い、意図をもっている。 創 - ①</p> <p>・「茶色の小びん」の合奏のそれぞれのパートが重なることで生み出されるよさや面白さなどを感じ取りながら、バッテリーリズムの仕組みを生かし、打楽器の音を組み合わせるリズム伴奏に構成するための試行錯誤をして、どのように音楽をつくるかについて自分の考えや願い、意図をもっている。 創 - ②</p>	<p>・友達の歌声・楽器の音や副次的な旋律、伴奏を聴きながら、自分の声や音を合わせて斉唱や合唱・合奏をしている。 技 - ①</p> <p>・互いの音を聴き合ってバッテリーリズムを演奏している。 技 - ②</p>	<p>・「王の行進」「馬のダンス」の旋律を聴き取り、それらの反復、変化、重なりが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、楽曲の構造に気を付けて聴いている。 鑑 - ①</p>

5 題材の指導計画及び評価計画（8時間扱い）

時配	ねらい ○学習内容 ・学習活動	教師の働きかけ	評価規準 評価方法
第1次 (2時間)	<p>ねらい：重なり合う音の響きを楽しんで「レッツ ダンス」を合唱する。</p> <p>○曲の雰囲気を感じ取る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽譜を見ながら鑑賞する ・主旋律・低声部を歌う <p>○歌声の重なりを感じながら二部合唱する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主旋律と低声部を歌うグループに分かれて二部合唱する ・合唱と鑑賞のグループに分かれて聴き合う 	<ul style="list-style-type: none"> ・主旋律を鑑賞するとき、音符を指さしながら聴くよう促す ・常時活動のリズム打ちで取り出したタッカのリズムがあることを確認する ・二部合唱の部分には、三度の合唱部分と、音が上昇する主旋律に対して、下がっていく音がついている部分があることを確認し、フレーズの音の動きを理解して歌えるようにする 	<p>創 - ①活動の観察 ワークシート</p> <p>関 - ①活動の観察</p> <p>技 - ①演奏の聴取</p>

<p>第2次 (1時間)</p>	<p>ねらい：旋律が重なり合うおもしろさを感じ取って「フェアランドール」を聴く。</p>		
<p>○2つの旋律の特徴を感じ取って聴く ・雰囲気かわるところを確認し、どのような特徴があるか考える ○旋律の重なり合いを感じ取って聴く ・二つの旋律を聴く係を決め、自分が担当する旋律が聴こえたら合図を出す</p>	<p>・「王の行進」「馬のダンス」の旋律を確認し、「前奏曲」との比較やスタッカートを想起させることで、二つの旋律の特徴を捉える ・二つの旋律がどのように表れたのかミュージックスケールに整理し、二つの旋律が重なる部分に注意して鑑賞する</p>	<p>関 - ②活動の観察 鑑 - ①活動の観察 ワークシート</p>	
<p>第3次 (2時間本時2/2)</p>	<p>ねらい：旋律が重なり合うおもしろさを感じ取って「パレード ホッホー」を歌う。</p>		
<p>○曲の感じをつかむ ・ア・イの旋律の特徴から歌い方を考える ○二つの旋律が重なり合うおもしろさを感じ取って歌う ・他方の旋律を聴きながら歌う</p>	<p>・音符を指さしながら主旋律を鑑賞することで、音の長さや旋律のもつリズムに着目して考えられるようにする ・ミュージックスケールにア・イそれぞれの特徴を書き込み、対比できるようにする ・自分が歌うフレーズに対して、他方のフレーズがどのような動きをするか確認する</p>	<p>創 - ①ワークシート 技 - ①演奏の聴取</p>	
<p>第4次 (3時間)</p>	<p>ねらい：豊かな響きを味わって「茶色の小びん」を合奏する。</p>		
<p>○拍の流れによって主旋律を演奏する ・曲の感じをつかんでリコーダーやオルガンで主旋律を演奏する ○拍の流れによって副次的な旋律、和音、低音のパートを演奏する ・副次的な旋律を鉄琴・リコーダーで、和音を木琴、低音をオルガンで演奏する ○リズム伴奏をつくって互いの音の響き合いを楽しみながら合奏する ・「茶色の小びん」に合う打楽器の組み合わせを考え、全体のバランスを考えて合奏する</p>	<p>・音色やフレーズのまとまりに注意して演奏できるように、息の使い方やタンギングを範奏で示す ・各パートの役割に気づけるようにし、互いに聴き合って演奏できるようにする ・バッテリーリズムを示し、試行錯誤できるように多くの打楽器で試させる</p>	<p>関 - ①活動の観察 創 - ①活動の観察 関 - ③活動の観察 創 - ②ワークシート 技 - ②演奏の聴取</p>	

6 本時の学習 (5/8)

- (1) 目標 二つの旋律が重なり合うおもしろさを感じ取って歌う
- (2) 視点とのかかわり

【視点2】思いや意図を表現する力を育むために

本時の目標である二つの旋律が重なり合うおもしろさを感じ取るためには、まず、それぞれの旋律の特徴をしっかりと捉えておく必要がある。児童は前時、ミュージックスケール（フレーズ、または曲を線分図に表わしたもの）を使って、「パレード ホッホー」の旋律の特徴について考えている。本時はその特徴をもとに歌で表現していく。一人一人が考えをもって、4人のグループで話し合い、出された考えをもとに実際に歌ってみる。歌った感想をまた話し合うことで、自分たちの演奏の意図を明確にしていく。話し合いを重ね、共有した考えを一人一人がまた自分のめあてと照らし合わせることで、思いや意図の高まった表現ができるようになる。

(3) 展開

時配	○学習内容・学習活動〔共通事項〕	○教師の働きかけ◆評価規準
5分	○発声・発音練習をする 『おとそろえるには〈音揃えるには〉 オモテきをつける 〈(拍の) 表気を付ける〉』	○前時のリズム打ちの学習のときに、拍の表を意識することで、音を揃えて演奏したことを確認する ○母音の発音の口形に気を付けるよう声をかける
5分	○二つの音が重なり合う響きを聴き合 って歌う ・リクエスト曲「ビリーブ」の二部合 唱の部分を取り出して歌う	○低声部を鍵盤楽器で繰り返し弾いて聴かせ、部分二部 合唱であることを確認する ○主旋律と低声部を歌う児童を確認し、自分と違う声部 を聴きながら歌えるよう声をかける
5分	○「パレードホッホー」の旋律からリ ズムが難しいシンコペーションの部 分を一小節取り出し、リズム打ちす る [リズム・音符] ・リズム読みをし、打楽器で演奏する	○タイがついていることを確認する ○タイのついた音符が3拍目の表になることを確認し、 タイの後の音符が3拍目の裏拍から出られるように 声をかける
25 分	○本時のめあてをつかむ [旋律・音の重なり]	
	お互いに聴き合いながら「パレードホッホー」のアとイを重ねて歌おう	
	・「パレード ホッホー」を歌う ○範唱を聴く [音の重なり]	○「ファランドール」を例にあげ、音ではなく旋律を重 ねることを確認する ○前時に書いたミュージックスケールを参考にして、ア とイの歌い方を工夫できるようにする ○二つの旋律の重なりを聴くよう声をかける ○重なりとはどういうことなのか、気づいたことを班で 相談する

5分	<p>○重なりとはどういうことなのか、アとイの楽譜を比べ、確認する [リズム・フレーズ・音符]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時ミュージックスケールに書いた特徴がリズムからわかることを確かめる <p>○歌い方の工夫を考えてミュージックスケールに書き込み、歌って重なり方を確かめる [フレーズ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スタッカートがついた部分はずんで歌う ・発音練習で歌った言葉の意味を考えて、拍の流れにのって歌う ・リズム打ちで取り出した部分が、どんなリズムと重なるかを確認して、半拍ずれる音を楽しんで歌う ・音が高いところを盛り上げて歌う <p>○自分が楽しく歌えた部分と理由をワークシートに書く [音の重なり]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が歌っているときに、他方のフレーズがどのように聴こえたか話し合う 	<p>○アとイの楽譜を上下に並べてリズムを比較できるようにする</p> <p>○アとイの旋律の特徴がはっきりする歌い方を工夫できるよう、班ごとに好きなフレーズを選んで、どのように歌いたいかをミュージックスケールに書き込むようにする ◆創 - ①ワークシート</p> <p>○上下に並べた楽譜に各班が考えた歌い方を書き込み、アのフレーズに対して、イのフレーズがどのような動きをするか視覚的に確認し、重なった時のおもしろさを理解できるようにする ◆技 - ①演奏の聴取</p> <p>○友達の意見を参考にできるように、班で一人ひとり発表してから、ワークシートに書くようにする ◆創 - ①ワークシート</p>
----	---	--

(4) 評価

A と判断される児童の学習状況 (質的な高まり、学習の深まりの具体例)
二つの旋律が重なり合うおもしろさを自分なりに理解して歌っている
C と判断される児童への手だて
鑑賞と同時に、二つの旋律の歌い方を指し示し、旋律の重なりを視覚的に確認できるようにする